

愛知県立千種高等学校の先生方へ



法学部法律学科4年

清水史奈

(愛知県立千種高等学校国際教養科 2012年3月卒業)



サークル活動で台湾へ

拝啓

春の日差しが心地よい今日この頃、いかがお過ごしですか。あっという間に私も4年生になりました。

6年前、桜の舞う中、新しい出会いにどきどきしながら入学した千種高校。帰国子女の多い国際教養科は、自由かつ真剣で、ユニークなクラスでした。週に17時間もあった英語の授業では、ディベートやパブリックスピーキングを通して、国際社会に出る強さと素養を身につけることができました。厳しくて優しい、愛にあふれた先生方のお話は、時に私たちの頬を濡らしましたね。

千種の雰囲気は今も変わっていませんか。私は中央大学の学生アドバイザーとして、大学進学相談会に参加しに名古屋へ帰ることがあります。そこで千種生を見つけることがとても楽しみで、私にもあんな時期があったな…などと、懐かしい気持ちになっています。前回は他大学の方がたまたま千種の先輩で、思い出話が弾みました。千種と聞くと、イベントでの一体感、だれもが自分が千種生であることに誇りと喜びを感じ、それを分かち合ったあの日々を思い出します。

さて、私の大学生活をご報告するとすれば、まずは留学です。奨学金をもらって、台湾留学をするという夢を叶えました。台湾では中国語の学習とともに、観光サイトの記事の執筆をしたり、現地のお祭りに参加したりしながら、台湾の歴史のみならず日台関係についても理解を深めました。台湾のご縁でさまざまな業界の方と知り合うこともでき、特別な経験を色々とさせていただきました。

そして、サークルでは法学部生と医学生とをつなぐ学術交流会を運営しました。遠い存在のようにも思える「法律(行政)と医療」の結びつきや妥協点をみんなで探りあいました。「自分が思う正しさが、相手にとっての正しさとは限らない」という視点を大切に、互いに学びあえる機会を作ることができたと感じています。

大学生になってから学んだことや、大学生になって変わったと感ずることもたくさんあります。それはきっと、高校生活で着実に積み上げてきたものがあったからこそでしょう。高校生のときに先生からいただいたメールを読み返してみると、当時は理解ができなくて反抗を覚えたことも、今ではすんなりと心に入ってきます。思わぬところで、自分の成長を感じます。

千種高校に欠かせない言葉といえば、「自主性」です。先生方は私たちを信頼して、決断を任せてくれました。管理されるのではなく、自分たちで変えていく。千種のそんな風土が大好きです。高校を卒業する際に、私は「母校に誇れる人間になろう」と決め、先生方による報告ができるように大学でも頑張ってきました。残りの1年も目一杯充実させ、後悔のない学生生活にしたいと思います。

春は新入生が入ってきて校舎が活気づきますね。忙しい時期だと思いますが、お体に気をつけてお過ごしください。千種高校の更なるご発展をお祈り申し上げます。

敬具